

# あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.244 2023.6.15



## もくじ

	◇ 新館長就任にあたって .....	2
特集	◇ 新松本市立博物館のながみ .....	3
誌上博物館	◇ 「開智」の校名が歩んだ150年 .....	4
	◇ 北沢喜代治『鵠凍えず』-すみ江の自己物語の意義とは .....	6
博物館のノートから	◇ 松本の時の鐘を訪ねて .....	7
ガイドコーナー	◇ ひとの動き・はんでんぼく .....	8



松本市立博物館

Matsumoto City Museum



新館長就任にあたって

## 10.7 新博物館のオープンにご注目ください。

4月1日から、博物館長に就任いたしました加藤孝です。新博物館のオープンを秋に控える時期でありますので、責任の重さを感じるとともに、新しい施設の開館という歴史的瞬間を迎えることに、今からワクワクしながら準備を進めています。

新博物館周辺も、新型コロナウイルスの影響から回復し、にぎわいを取り戻しています。松本城を訪れる国内外からの大勢のお客様の姿を見かけると、改めて松本城を中心とした松本観光の人気の高さを感じます。

私は、多くの人で賑わうこの地に誕生する新博物館には、さまざまな機能・役割があると考えています。

まず、博物館として、郷土に関する価値ある資料を収集し、保存し、研究し、またそれを市民の皆さんに分かりやすく展示していく、使命とも言える基本的な機能・役割です。新博物館は2階に企画展示室、3階に常設展示室と2つの大型展示室を持ち、今まで展示できなかったものも含め、多くの皆さんへより効果的に学びの機会の提供や情報発信ができるようになります。

また、観光客が立ち寄り、観光施設としての役割も担います。松本城二の丸の旧館がそうであったように、観光で松本市を訪れた多くのお客様が、見学に立ち寄り、休憩をされる場所になります。遠方からのお客様に、松本市を楽しみながら理解していただく機会を提供していきたいと考えています。

更には、交流スペースなどを備えた1階は、市民、企業関係者、観光客など、様々な人が出会い、つながる場として、従来の博物館のイメージを超えた活用ができる場所となります。

新博物館が、松本城界隈を巡るスタート地点として、並びに「松本まると博物館」の中心施設として機能し、新しい学びや価値の創出、あるいは、将来につながる文化が誕生する場所になることを目指して、さまざまなしなかけを、多くの方々と展開していきたいと考えています。

今後、積極的に情報発信もしていきますので、新博物館のオープンにご注目ください。

応援、よろしく申し上げます。

松本市立博物館 館長 加藤 孝

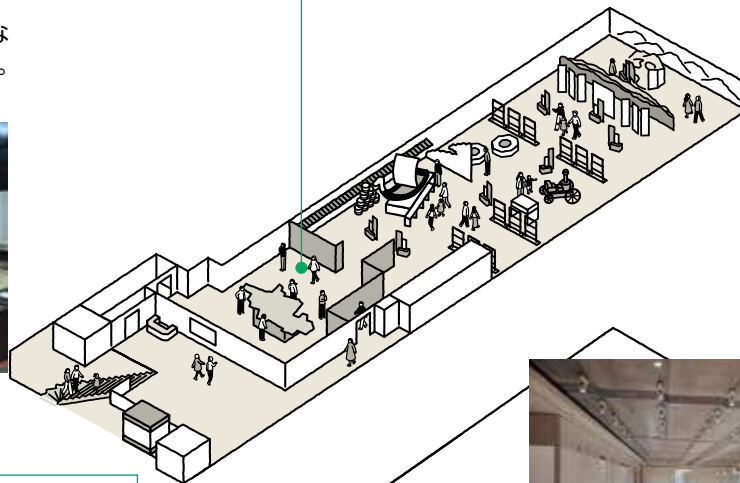
# 新松本市立博物館のなかみ

たゞいま  
準備中

松本市立博物館の開館まで半年を切りました。本誌No.241から特集として建物や展示室の様子など紹介してきましたが、ここでは、備品なども整いはじめた新しい博物館の館内をまとめて紹介したいと思います。

## 常設展示室

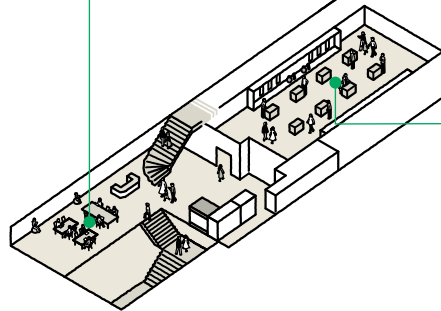
松本の自然・歴史・文化などの多様な魅力を8つのテーマで紹介します。  
(詳しくは本誌No.242参照)



3階

## 図書情報室

まちを眺めながら松本や周辺地域、展示に関わる書籍を自由に読むことのできる空間です。



2階

## 特別展示室

大きな壁面ケースと移動式の展示ケースを備え、多彩なテーマの特別展や企画展を開催します。(詳しくは本誌No.242参照)



1階

## ドリンクコーナー

松本民芸家具の机や椅子に座って、お茶など飲みながらひと休みできる場所です。



## 交流学習室

松本のものづくりや博物館の資料に関連したワークショップなどを開催します。

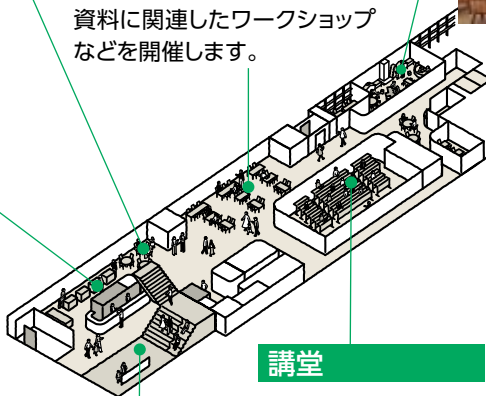


## 子ども体験ひろば アンビバ!

体験と遊びをとおして、発見の喜びと学びに出会う子どもの空間です。  
(詳しくは本誌No.242参照)

## ミュージアムショップ

松本の歴史や文化を感じられるミュージアムグッズを販売します。



## 講堂

最大120人を収容でき、松本の歴史や文化、自然に関連した講座や講演会などを開催します。



## 導入展示エリア

(詳しくは本誌No.242参照)

この他の情報は  
コチラ



あなたと博物館  
バックナンバー



新博物館  
オープンに向けて

## 「開智」の校名が歩んだ 150 年

開智学校は、今から 150 年前の明治 6 年 (1873) 5 月 6 日に開校しました。当時、松本は現在の長野県の中南信と岐阜県高山地域を県域とする筑摩県の県庁所在地でした。開智学校は、権令 (現在の県知事) 永山盛輝を中心に教育政策に熱心だった筑摩県の中心校として開校しました。今回は、「開智」学校の校名がたどった歴史を紹介します。

### 「開智」の由来

「開智」の語は、古くから漢籍の中に出てきた言葉のようです。近代学校制度を定めた学制では、「智を開き才芸を長する」ために学びが重要だと説いており、「開智」の校名は学制中のこの一節から名付けられたといわれています。

鎖国が終わり外国から次々と未知の文化が到来していた明治初期には、旧来の習慣にとらわれずに様々なことを学んで自らの知識を開くことが強く求められていました。「開智」という名前は、学校がどんな場所なのかを端的に表す言葉であり、なおかつ新しい時代にふさわしい言葉であることから採用されたのではないのでしょうか。そしてなにより子どもたちが「智を開く」学校で大いに学び、希望に満ちた未来に飛び立ってほしいという思いが込められているように感じます。

### 特別な校名となった「開智」

「開智」学校として開校してしばらく後、校名をめぐる長野県と攻防をくり広げることがありました。きっかけは、明治 22 年に小学校の校名を学校が所在する地名か町村名と同一にせよという長野県令が出されたことです。開智学校は、同 19 年の小学校令による学校再編の際にも、「他之学校とは異なるを以て」県から校名を特別に据え置くことの許可をもらっていましたが、この時も「松本学校」への改名をよしとせず、町役場に「開智」の校名存続を訴え出ます。

旧開智学校校舎には、この時の校名存続願に関する資料が残っています。昨年度には明治 19 年に校名を据え置くように県に訴えた書類の下書きとなる資料も寄贈され、校名存続を願う当時の人々の思いが具体的にわかるようになってきました。

明治 19 年の訴えの下書きとなる資料には、アメリカのニューオリンズ万国博覧会 (明治 17 年) で紹介され、日本中に広く知られた学校だから校名の変更を免除してほしいとあります。同 22 年

の校名存続の具申書には、「数百里之他県迄も松本の公立学校は開智学校と申事は好く知られたる通称にして仮令ば郵書等之上書単に開智学校とのみ記載有之候へば無滞達する」と記されており、「開智」の校名が「他の学校と異なる」特別なものであり、校名を存続することが「郡内人民希望する」ところであると続きます。

結局、訴えもむなしく校名は「松本尋常小学校」に変更されることになりましたが、当時の人々がいかに「開智」の校名に愛着を持っていたのかが分かります。また、万国博覧会に写真や図面などが出品されたことが、「開智」の校名が特別なものであるという意識形成の一助となったことも新たな資料によって明らかとなりました。

### 松本小学校に改名

県令にも抗い「開智」の校名を守ろうとしたものの、開校からわずか 16 年後の明治 22 年 9 月、ついに松本尋常小学校に校名が変更になりました。当時の学校日誌には「松本開智尋常小学校を改めて松本尋常小学校となす蓋し法令開智の二字あることを許さざればなり」と記されています。開校以来使われていた「開智」の校名は姿を消し、明治 25 年には松本尋常高等小学校となり、男子部と女子部に分かれて一市一校制がスタートします。この時期の開智学校は「男子部」と呼ばれていて、「開智」の校名で呼ばれることは基本的にはありませんでした。

現在の松本市立開智小学校の校歌も明治 31 年に作成されましたが、作られた当時は「校訓の歌」という名前であり、歌詞の中には「開智」の言葉は出てきません。これは、作詞者の浅井湧が校訓「愛正剛」の歌として作詞したことによりですが、作詞時は開智学校という校名でなかったことも影響したと考えられます。「開智」の校名が復活し、浅井湧が作詞した校歌も復活した現在、歌詞に校名が全く出てこないという珍しい校歌になっているのはこうした学校の歴史が関係しているのでしょうか。

惜しまれながらも消えてしまった「開智」の校名ですが、大正 5 年 (1916) に学校の同窓会とは別に「開智倶楽部」という会が結成されています。この会は松本小学校卒業から 5 年経過した人



校名存続の具申書  
(明治22年)

を会員とし、講演会や親睦会などを行っていました。こうした卒業生の会に「開智」の名が使われているところを見ると、校名が変わってすでに20年以上経っても地域の人たちに「開智」という名が愛されていたことがわかります。

### 「開智」の校名の復活

大正7年、ついに「開智」の名前が復活を果たします。校名は松本尋常高等小学校のままでした。それまでの「男子部」が「開智部」に改称されたという限定的な復活です。この時、「男子部」が「開智部」になるのに合わせて、「女子部」（現在の日本銀行松本支店と松本市役所の辺りにあった松本尋常高等小学校の部校の一つ）も「柳町部」へと改称しています。児童数の増加や通学区の見直しといった理由から「男子部」「女子部」の別をやめ、それぞれの校舎に男女両方が通うようになったと考えられます（といっても現在のような男女共学ではなく教室は男女別々のままでした）。

「開智部」として限定復活した「開智」の校名は、昭和10年（1935）に一市一校制が廃止となり各部校が独立する際に、「松本市立開智小学校」となることで校名として完全復活を遂げました。



大正6年度の日誌と7年度の日誌(校名が変わっている)

### 新しい「開智」学校の誕生

戦時中は「松本市立開智国民学校」となっていた時期もありますが、再び復活した「開智」の校名は現在に至るまで途切れることなく使われ続けています。ただし開智学校は、昭和38年3月に一旦閉校しています。新校舎建設に伴い、女鳥羽川沿いから現在地へと移転した際に、開智学校は当時城北地区にあった松本市立田町小学校と合併することとなりました。この時、開智学校と田町

小学校はそれぞれ閉校して新しい「開智」小学校になることとなりました。開智学校側からみると一見校名が変わっていないようにみえますが、田町小と合併して新しい学校になるということで、昭和37年度には開智学校内でも数々の閉校記念事業が行われています。そのため、学校の歴史上では一つの区切りとなりましたが、校名は新しい学校に引き継がれて途切れることなく現在まで使われていることとなります。

### 校名から地域の名前に

現在、開智小学校と旧開智学校校舎が所在する地域は「開智」という地名になっています。しかし、開智小学校が移転した当時、この地域は「沢村」という地名でした。地名が「開智」に変更されたのは昭和40年のことです。理由はもちろん開智小学校（と旧開智学校校舎）が移転したことによります。長く使われた地名が変更するにあたっては様々な反応があったとは思いますが、「開智」の名が地域の新たな象徴となったといえるでしょう。

明治の時代には校名を地名と同一にしろといわれ、渋々松本小学校へと名前を変えたのに、昭和の時代には逆に地名の方を変えてしまうという離れ業をやったのけました。大切にされてきた「開智」の校名がさらに特殊性を獲得したといえるでしょう。

「開智」学校の校名についてみてきましたが、校名にも様々な歴史があることを改めて実感します。開校間もない頃から“日本中に知られた校名である”と人々が誇りをもって守ろうとした「開智」の名は、紆余曲折ありましたが移転先の地名を変えるほど影響力のある校名へと成長していきました。

今年が開智学校開校150周年となりますが、これほど地域の人々に大切にされ、なおかつ広く知られている校名は、全国を探してもそうはないでしょう。これからも「開智」の校名が永く大切にされるよう、旧開智学校校舎でも校名にまつわる人々の想いをしっかりと記録していきたいと思えます。

(国宝旧開智学校校舎 学芸員/遠藤正教)

### 企画展「開智学校開校150周年記念展」

[会 期] 4月29日(土)～7月17日(日)・(祝)  
※第3月曜休館、午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
[会 場] 国宝旧開智学校校舎藤棚休憩所、松本市旧司祭館  
[料 金] 無料



北沢喜代治と『鵠凍えず』  
については本誌No.229で  
紹介しています。

# 北沢喜代治『鵠凍えず』 —すみ江の自己物語の意義とは—



鵠(白鳥)

## 1 「鵠」が象徴するものについて

『鵠凍えず』では、中年となったすみ江が、過去を振り返り自分の芸者としての一見汚れた半生について語るというプロットが採られています。また、すみ江の語りは、幼い頃に善光寺で行われた俳優のロケを母親と見に行った際に、空に羽ばたく鵠(白鳥)を見たという場面から始まります。そして、生け捕りにされ鳥小屋で飼われている鵠と出会い、思いを巡らせる場面で、すみ江の語り及び物語は終焉を迎えます。

では、この物語の初めと終わりに登場する鵠は、何を象徴しているのでしょうか。昭和40年(1965)10月25日付の「読売新聞」に、作家・八木義徳が「大正的古風な魂—汚れを知らぬ女性の半生—」という見出しで『鵠凍えず』を批評しています。ここで、八木は「自分の魂の奥底にもつ最後の“もの”だけは絶対に人手に渡さぬ、というこの女主人公のいわば大正的古風な魂にこそ、作者のつよい郷愁があったのであろう。そしてこの物語の始めと終りをつなぐ美しい白鳥の姿を、女主人公の汚れながら汚れを知らぬ純潔な魂の化身と見立てたのであろう。」と述べています。ここでは、八木の〈『鵠凍えず』で鵠が象徴しているのは、主人公(すみ江)の汚れながら汚れを知らぬ純潔な魂〉という説を採用して考えていきたいと思えます。

## 2 すみ江の自己物語の意義を考える

では、中年となったすみ江が自分の半生を語る際、初めと終わりに〈すみ江の汚れながら汚れを知らぬ純潔な魂〉の象徴である鵠を登場させたのは何故でしょうか。

心理学者である榎本博明の著作『〈ほんとうの自分〉のつくり方』では、次のように述べられています。

「体力的にも限界を感じたり、衰えが見えはじめ、無理がきかなくなる。これまでのようなやり方がもはや通じなくなる人生の後半に向けて、どのように態勢を組み立て直すか。それが人生の大きな転換期としての中年期に課せられた課題となる。」

『鵠凍えず』で自分の半生を語るすみ江は、まさに「中年期」であり、人生の転換期にあったといえます。また、同書では次のようにも述べられています。

「人は、人生に行き詰まったとき、だれかにその窮状を語る必要に迫られる。こちらの語りに耳を傾けてくれる聞き手を必要とする。[中略] そこでは、聞き手に対して自己を語ることによる自己物語の書き換えが行われる。」

[中略] 自己の体験や思いを十分に語りつくすことによって、自己物語に新たな展望が開けてくる。[中略] よく「吹っ切れた」などと言うが、それは今の現実を取り込むことができ、それを前提とした前向きの将来展望をもつことを可能にするような、新たな自己物語を手に入れたことを意味するといいたいだろう。」

つまり、人生の転換期にあったすみ江は自己物語を書き換えることで、今後の人生について「前向きの将来展望をもつことを可能」としたかったのではないのでしょうか。その結果、〈すみ江の汚れながら汚れを知らぬ純潔な魂〉の象徴として、すみ江の自己物語内に鵠が登場することになったと考えられます。

〈すみ江の汚れながら汚れを知らぬ純潔な魂〉を初めから最後まで失っていないと語ることで、すみ江は「前向きの将来展望をもつことを可能にするような、新たな自己物語を手に入れた」と考えられます。運命の定まらない幸薄い芸者生活の中でも自らの〈魂の純潔さ〉は失っていないと語ることで、すみ江は自己物語の書き換えを行い、現状よりも前向きな新たな自己物語を生み出したのではないのでしょうか。

## 3 まとめ

『鵠凍えず』の先行研究にはすみ江が自分の半生を語る意義を分析したものはありませんでした。今回は、今まで先行研究で着目されていなかったすみ江の自己物語の意義について考えてみました。その結果、〈すみ江の汚れながら汚れを知らぬ純潔な魂〉を初めから最後まで失っていないと語ることで、すみ江は自己物語の書き換えを行い、現状よりも前向きな新たな自己物語を生み出したということができるとは思いませんか。

○この原稿を書くにあたり、神奈川大学教授 松本和也先生にご指導いただきました。この場を借りて感謝の意を表します。

## 参考文献

- ・北沢喜代治『鵠凍えず』(信州書房、1965)
- ・八木義徳「大正的古風な魂—汚れを知らぬ女性の半生—」(読売新聞、1965)
- ・島田杏花「『鵠凍えず』について」(『屋上』48号、1981)
- ・榎本博明『〈ほんとうの自分〉のつくり方』(講談社現代新書、2002年)
- ・三木ふみ『北沢喜代治—人と作品』(屋上の会、2007〈非売品〉)

(松本市立博物館 学芸員/本間花梨)

## 松本の時の鐘を訪ねて

### はじめに

私は令和2年(2020)から2年間、松本市四賀化石館の学芸員として勤務し、令和4年からは松本市時計博物館の学芸員として働いています。化石館で勤務していた頃から、化石が教えてくれる46億年間の地球史にロマンを感じていましたが、時計博物館で勤務するようになって、より一層何気なく生きている日常や時間を大切に考えるようになりました。

多忙な現代社会の中で忘れ去られがちな「時」の大切さについて何かを感じていただけたらという思いで、令和4年11月20日(日)にまち歩き講座「松本の時の鐘を訪ねて」を開催しました。

本稿は、講座開催に向けての調査で学んだことや気づきなどを綴りたいと思います。



まち歩き講座の様子(日念来寺鐘楼前にて)

### 時の記念日制定

本題に移る前に、毎年6月10日の時の記念日についてご紹介します。時の記念日は、大正9年(1920)に制定されました。大正時代に入ると、時間尊重を啓蒙とする文部省の外郭団体・生活改善同盟会が創設され、啓蒙活動の一環として東京教育博物館(現・国立科学博物館)で「時」展覧

会が開催されました。この展覧会をきっかけに制定されたのが時の記念日です。

様々な情報機器が発達した現代では、あまり時間を意識して生活することが少なくなりましたが、毎年6月10日になると、時間の大切さを啓発する活動が行われています。松本市では、数年前に、市内各所にある寺院の鐘を、明け六つ(午前6時頃)と暮れ六つ(午後6時頃)の時刻に、一斉に打ち鳴らす行事などが行われていました。

### 時の鐘を尋ねて

まち歩き講座では、江戸時代の松本の時計についてお話しましたが、ここでは、時の鐘として広く親しまれた「念来寺の時の鐘」についてご紹介します。

調査の中で最も感銘を受けたことは、松本藩の多くの寺院が藩の援助によって存続していたのに対し、念来寺は住民や参詣に来る人々の信仰で成り立っていたということです。時の鐘に関して、毎日聞こえてくる梵鐘への感謝の気持ちで、住民が米穀を持ち寄ったと言われています。

講座の参加者の方から「学芸員と他の参加者の皆様と共に楽しみ、学ぶことができて良かった。」という温かいご意見をいただき、「地域の伝統や文化財は、行政と市民の熱い思い、愛着によって継承されていくのだな」と強く感じる機会となりました。

### おわりに

松本市の学芸員として、松本地域の伝統や財産を守るため、地域の皆さんに興味関心、愛着を持っていただけるような博物館事業を開催していきたいと決意する機会になりました。今後もまち歩き講座などを通して、市民の皆様とお話をしながら、共に学び、共に成長してまいりたいと思います。

(松本市時計博物館 学芸員/小林駿)

### 参考文献

田中馨「日念来寺鐘楼と時の鐘」(『信濃安筑史談』1942年、明倫堂書店)  
平出裕子「時の記念日の創設」(『日本歴史』2008年、吉川弘文館)  
井上毅・佐々木勝浩「1920年に東京教育博物館で開催された「時」展覧会の出品物の調査」(2015年)

転入・新規採用 よろしくお申し込みします。

館長 加藤 孝 (松本城管理課→市立博物館)  
 会計年度任用職員(館長) 青木 美伸 (農業委員会事務局→四賀化石館)  
 会計年度任用職員(館長) 大池 徳尚 (生涯学習課→旧山辺学校校舎)  
 会計年度任用職員(館長) 中嶋 岳大 (あがたの森文化会館→歴史の里)  
 会計年度任用職員 古屋 怜子 (生活福祉課→民芸館)  
 会計年度任用職員 関澤 智子 (馬場家住宅)

退職・転出 お世話になりました。

館長 木下 守 (市立博物館→あがたの森文化会館)  
 課長 百瀬 功三 (市立博物館→松本城管理課)  
 課長補佐 三木 章平 (市立博物館→公共施設マネジメント課)  
 主査 福沢 佳典 (市立博物館→生涯学習課)  
 主任 千賀 康孝 (市立博物館→教育政策課)  
 主事 弘中 奏宇 (市立博物館→文化振興課)  
 会計年度任用職員(館長) 田堂 誠 (四賀化石館→退職)  
 会計年度任用職員(館長) 上條 直利 (旧山辺学校校舎→学校教育課)  
 会計年度任用職員(館長) 百瀬 洋志 (歴史の里→退職)  
 会計年度任用職員 小倉 君予 (民芸館→スポーツ施設整備課)  
 会計年度任用職員 西村 奈美 (考古博物館→文化財課)  
 会計年度任用職員 田中 増矩 (窪田空穂記念館→退職)  
 会計年度任用職員 山田 優子 (馬場家住宅→退職)

課内異動 改めてお申し込みします。

主任 宮下 慶祐 (馬場家住宅→市立博物館)  
 主任 内川 潤季 (山と自然博物館→市立博物館)  
 会計年度任用職員 有賀依り子 (時計博物館→市立博物館)  
 会計年度任用職員 大島 浩 (市立博物館→四賀化石館)

ガイドコーナー はんでんぼく

※申込み・問合せは各館へお電話ください

展示スケジュール

詳細はホームページへ! <https://www.matsu-haku.com/>



館名称	7月	8月	9月
窪田空穂記念館	■七夕さま「星に願いを」 7/7(金)~8/6(日)		
松本市時計博物館		■夏季特別展「航海と旅を支えた時計」 7/29(土)~9/10(日)	
旧山辺学校校舎	■特別展「夏休みの自由研究にどうですか『昔の道具調べ』」 7/20(土)~8/31(日)		

※料金は通常観覧料 ※月曜休館(休日の場合は翌平日)

窪田空穂記念館から

☎0263-48-3440

七夕さま「星に願いを」

明治期の面影を伝える空穂生家の縁側で短冊に願いを込めて書いてみませんか…。

会 期 7月7日(金)~8月6日(日)

会 場 窪田空穂記念館  
窪田空穂生家(窪田空穂記念館向かい)

料 金 通常観覧料(高校生以上310円・中学生以下無料)  
生家のみ観覧無料

問 合 せ 窪田空穂記念館まで

旧山辺学校校舎から

☎0263-32-7602

市民学芸員による戦争紙芝居上演

日 時 8月5日(土)  
1回目 午前10時50分~11時20分  
2回目 午後12時45分~1時15分

場 所 旧山辺学校校舎内

料 金 通常観覧料(高校生以上200円・中学生以下無料)

問 合 せ 旧山辺学校校舎まで

四賀化石館から

☎0263-64-3900

夏休み3講座

- ①古生物の部屋づくり
- ②微化石モンスターを探せ!
- ③化石クリーニング体験

日 時 ①7月23日(日)  
②7月30日(日)  
③8月5日(土)  
午前の部:午前10時~11時30分  
午後の部:午後1時30分~3時

対 象 ①②5歳以上(小学生以下は保護者同伴)  
③小学3年生以上

料 金 1名500円(観覧料含む)

定 員 20人(要予約・先着順)

申 込 み いずれの講座も7月6日(木)午前9時から電話で四賀化石館へ

松本市立博物館 開館記念特別展案内

まつもと博覧会

令和5年10月7日(土)~12月10日(日)

至極の大衆文化浮世絵-酒井コレクション-

令和6年1月13日(土)~3月3日(日)

あとがき

4月に新年度をむかえ、新たなメンバーでのスタートをきりました。10月には新博物館のオープンも控え、今年度も濃密な一年となりそうです。心を入れ替え、職員一丸となって博物館事業に取り組んでまいります!  
(松本市立博物館 吉澤せり子)

あなたと博物館 No.244

発行年月日/令和5年6月15日  
編集・発行/松本市立博物館  
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133  
URL: <https://www.matsu-haku.com/>  
e-mail: [mcmuse@city.matsumoto.lg.jp](mailto:mcmuse@city.matsumoto.lg.jp)



印刷 川越印刷株式会社